



ニュースリリース 平成 25年 3月 29日

**<特別展示>『常陸国風土記』の世界」～衣食住と伝承から見た風土記～
のご案内 ～常陽史料館～**

常陽銀行（頭取 寺門 一義）は、このたび、常陽史料館（館長 館野 孝男）において特別展示「『常陸国風土記』の世界」～衣食住と伝承から見た風土記～を開催いたします。

『常陸国風土記』は、奈良時代はじめの和銅 6 年（713）に元明天皇により出された^{みことのり}詔に^{こおり}応じて出された報告書です。この報告書は全国で編まれたものと推定されますが、現存するものは「常陸」「播磨」「肥前」「豊後」「出雲」の 5 つのみで、このうち「出雲」を除いては不完全なものとなっています。

常陸国には、新治、白壁、筑波、河内、信太、茨城、行方、香島、那賀、久慈、多珂の 11 の^{こおり}郡が設けられ、それぞれに郡衙^{ぐんが}が置かれていました。『常陸国風土記』には、それらの郡ごとの記事が漢文により記されており（白壁と河内は記述なし）、華麗な^{しろうくべんれいたい}四六駢儷体を駆使した美文であることから、当時としては高い水準の文化・教養人がまとめたものと推定され、養老 3 年（719）から 7 年（723）まで常陸国司として在任した藤原^{うまかい}宇合によってまとめられたとする説が有力視されています。

本展は 3 部構成で、1 部では、主にパネルで『常陸国風土記』各郡の特色ある事項を説明し、「ヤマトタケルノミコト」の等身大像を展示しています。

2 部では、巨大な「ダイダラボウ」の像や、各地に残る「伝承」をイラストにより紹介、併せて「伝承」の意味するところを探ります。3 部では『常陸国風土記』と衣・食・住をテーマに、奈良時代の衣装や当時の食事を再現しています。また、出土瓦の展示に加え、新治廃寺や平沢官衙遺跡の復元模型等を展示いたします。つきましては、多くの皆さまにご覧いただけますようご案内申し上げます。

記

- 会 期：4 月 2 日（火） ～ 5 月 19 日（日）
- 休 館 日：毎週月曜日
- 開館時間：10：00～17：45
- 会 場：常陽史料館 アートスポット（入場無料）
- 主 催：財団法人 常陽藝文センター
- 後 援：茨城県、茨城県教育委員会、水戸市教育委員会
- 監 修：井上 辰雄（筑波大学名誉教授）